

2年後に新工場が完成します ごみ減量を、更に！

クリーンセンター運営協議会 会長／狩野 耕一郎

昭和59年(1984)3月に完成し、10月に稼働開始した武蔵野クリーンセンターは、その後32年間を経て2年後の平成29年(2017)4月に全く新しい工場に生まれ変わります。

市役所の北側に向かってすぐ隣、工事現場を囲む仮囲いの透明なパネルから、内部の工事の様子を見渡すことができます。巨大なクレーンは一時も静止をせずに稼働しているように見え、重い鉄骨などを吊り上げる順序もきちんと定められて、建設従事者の動線と連動していることを知りますと、つくづく「凄い世界だな」と感動を覚えました。

昭和59年、現在のクリーンセンターは、用地を提供された地主の方のご理解と、周辺住民の皆様の苦渋の決断の末に「市内のど真ん中に存在するごみ焼却場」として、幾多の困難を乗り越えて誕生しました。そして施設の竣工とともに、周辺の緑町三丁目町会・北町五丁目町会・武蔵野緑町団地自治会(注)の三団体の参加で、施設運営のチェック機関として発足したのが、「クリーンセンター運営協議会」です。以来、5月には第205回を数えるほどに、協議を重ねて参りました。

平成17年に運営協議会発足20周年を記念して「クリーンセンターの今昔そして未来 パートナーシップの20年」なる記念誌を発行しました。その後10年経ち、今年は新たな節目の30周年を迎えます。改めて今までの歩みを記録し顧みること、ごみ減量やごみ処理の分散化など、クリーンセンターが直面する課題に向けて、市民の皆様の叡智と関心を招来できるような記念誌の発行を計画しています。

運営協議会が市民参加の一つの典型という自負はあっても、クリーンセンターの運営管理に携わるスタッフ各位の不断の努力があつての操業であることを一市民としても感謝しつつ、今後の新工場建設工場の安全な進捗を願っている次第です。

市民の皆様の一人ひとりが「ごみを減らそうね」とか「きちんと分別しよう」の合言葉で真剣に向き合う社会であって欲しい、その象徴としても新クリーンセンターに対して大きな期待をしています。

注)後に団地建て替えにより武蔵野緑町パークタウンに名称が変わり、敷地内に武蔵野緑町2丁目第2アパートが併設された。平成14年、2団体で「武蔵野緑町二丁目三番地域住民協議会」を結成し運営協議会に参加。

* 編集後記 *

武蔵野市のクリーンセンターをめぐる市民と行政のパートナーシップとは？ 長年運営協議会を通して長年育ててきた市民参加とは？ いったいなんだったのだろうと思う。未来に確かにつなげていくことの大切さと難しさをひしひし感じる今日この頃です。(木村 文)

平成27年度 運営協議会委員	
会 長	狩野 耕一郎(緑町三丁目町会)
副会長	高橋 豊(北町五丁目町会)
会 計	早川 峻(北町五丁目町会)
会 計	藻谷 征子(緑町三丁目町会)
会計監査	千綿 澄子(緑町二丁目三番地域住民協議会)
	島森 和子(北町五丁目町会)
	和田 善一郎(緑町三丁目町会)
	木村 文(緑町二丁目三番地域住民協議会)
	興梠 信子(緑町二丁目三番地域住民協議会)
	木村 浩(環境部参事)
	和地 稔(クリーンセンター所長)

●平成26年度 運営協議会決算 単位：円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	6,912
その他の収入	91,496	広報費	443,760
前年度繰越金	360,349	事業費	756,198
		会議費	0
		備品費	100,440
		交際費	0
		予備費	0
計	1,451,845	計	1,307,310
次年度繰越金			144,535

●平成27年度 運営協議会予算 単位：円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	370,320
前年度繰越金	144,535	事業費	750,000
		会議費	10,000
		備品費	40,000
		交際費	5,000
		予備費	19,215
計	1,204,535	計	1,204,535

●平成27年度 運営協議会事業計画

1. 運営協議会会議(4・5・8・10・12・2月)
2. イベント(10月11日)
3. 「運営協議会だより」発行(7・12・3月)
4. バス研修会(11月22日)
5. 委員視察研修
6. 理事者との意見交換会(12月)
7. 環境健康診断(2~3月)

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5 武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 61

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺住民3団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

CONTENTS

- P1...さらに求められるごみ減量!
- P2...やってみよう! ごみを減らす工夫
- P3...工事中 NOW・委員研修報告
- P4...活動報告 他



さらに求められるごみ減量!

武蔵野市のごみは減ってきたけど

クリーンセンター運営協議会では、定期的にごみの搬入量や各種測定結果など、詳しく報告されます。これによると近年、施設に搬入されるごみが減ってきています。かつて武蔵野市の1人が1日に出すごみの量は、多摩地区の中で非常に多いという課題がありました。そこで市は、平成18年に市民1人が1日に出すごみ・資源物を700gまで減らす「武蔵野ごみチャレンジ700グラム」を宣言し、市民・事業者・行政が協働して取り組み、平成21年度に目標を達成しました。その後、平成22年に目標値を600gに設定して、さらにごみ減量を進めています。

ごみをめぐる状況の変化

平成20年から循環型社会に向けてごみに関する法律の改定が続き、平成23年には東日本大震災・福島第一原発の事故、平成26年の消費税8%への引き上げなど社会情勢は大きく変動し、その影響で私たちの生活やごみの状況も変化してきました。

武蔵野市では桜堤地域で大規模マンションが増加し、平成25年人口が14万人を超えました。しかも高齢化率が21%を超え、吉祥寺や武蔵境の駅周辺などの発展により昼間人口も増加しています。高齢者や若者の単身世帯も増えてきています。

新クリーンセンターの建設も平成29年4月稼働を目指して進んでいます。新施設は、近年ごみが減ってきていること、これまでのごみ減量への取り組みを見据え、効率的に運営することを前提にして処理能力を少なく設定されています。

武蔵野市の今後のごみ対策

ごみは減少する傾向にあるといっても、人口の増加などにより、ごみが増える心配もあります。

武蔵野市は、どのようにごみを減らしたらいいかを探るために、平成25年にごみの排出実態調査を行いました。その結果、年代・世帯人員ごとのごみ出し量や内訳などの傾向が明らかになってきました。効果的なごみ減量施策を探るため、この調査結果をもとに、第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議で検討され、今年3月「平成27年度～36年度 一般廃棄物処理基本計画」をまとめました。

行政・事業者はもちろん、市民一人ひとりもさらにごみ減量が必要になってきます。



1人ひとりが少しずつ減らせば、ごみは減量できるけど、人口が増えるから、もっと努力が必要なのね!

やってみよう! ごみを減らす工夫

一人一日に出すごみを減らすために、何ができるでしょうか。クリーンセンター周辺地域の方々に、日頃気をつけているごみを減らすちょっとした工夫をうかがってみました。一人ひとりの意識が変われば、ごみの減量・資源化が進みます。できることから、長く続けて、心がけたいものです。



<p>日頃から</p> <p>できるだけ使い捨てにせず、気に入ったものを手入れしながら、大切に長く使う。</p>	<p>日頃から</p> <p>ごみ減量を心がけるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ箱を小さめにする。 ・ごみ箱の数を減らす。 	<p>ごみのゆくえ</p> <p>ごみは燃やしてもなくならない。市外の最終処分場や資源化する工場へ運ばれる。ごみのゆくえを知れば、分別も理解しやすい。</p>
<p>買い物で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイバックを持参し、レジ袋はもらわない。 ・プラスチック容器、ペットボトルなどは購入した店に返却。 	<p>買い物で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材によって、食べきれぬ量、必要な分だけ買う。 ・不要なものは買わない。 	<p>台所で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や肉を買ってきたら、早めに下処理して保存。 ・保存する際は、賞味期限や購入した日付けを器や袋に記入。
<p>台所で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量の野菜をもらったら、新鮮なうちに近所におすそ分け。 ・料理は、食べ切れる量を作る。 ・余った物は早めに使い切る。 	<p>台所で</p> <p>食材を無駄にしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼちゃの煮つけは、種や皮ごと調理する。 ・大根、人参などは、できるだけ皮をむかない。 	<p>冷蔵庫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫や冷凍庫に入れた食べ物は、早めに食べ切る。無駄に残さないように。 ・冷蔵庫の収納は7分目にする。中の食材が把握できる。
<p>生ごみは</p> <p>生ごみはできるだけ水分を切る。水分が多いと悪臭のもとになる。水切りが十分でない生ごみ多いと、ごみ収集車の中に汚水がたまる。</p>	<p>プラスチック容器類</p> <p>プラスチック類はかさばるので、全体を小さくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみで小さく切る。 ・豆腐のパックなど、かさばる物は四隅を切り離し、平面にする。 	<p>プラスチック容器類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗剤やシャンプーなどは、詰め替えができるものを使う。 ・できるだけつぶして空気を抜けば、かさばらなくなる。
<p>ペットボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイボトルを持参し、ペットボトルなどは、できるだけ買わない。 ・麦茶などは、ティーバッグや茶葉で作る。 	<p>紙類は資源に</p> <p>紙類は分別して資源に。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな紙でも雑紙として出す。 ・地域の集団回収に協力する。 	<p>資源にするために</p> <p>牛乳パックなどの紙パック類を資源にするためには、「すすいで、開いて、乾かして」、店頭の回収ボックスに入れる。</p>
<p>布類は</p> <p>古くなったタオルやシーツ、Tシャツやストッキングなどは、切り分けて掃除に使う。</p>	<p>布類は</p> <p>テーブル拭きや汗拭きなどは、ティッシュペーパーではなく、布製の布巾やハンカチを使う。紙を1回の使用で捨てるのはもったいない。</p>	<p>家族で</p> <p>分別箱を作って、毎日分別する習慣を家族みんなで作る。</p> <p>①新聞・チラシ ②雑誌・本・ノート ③雑紙(菓子や食品の空き箱・たばこの空き箱) ④ボール紙・茶封筒</p>

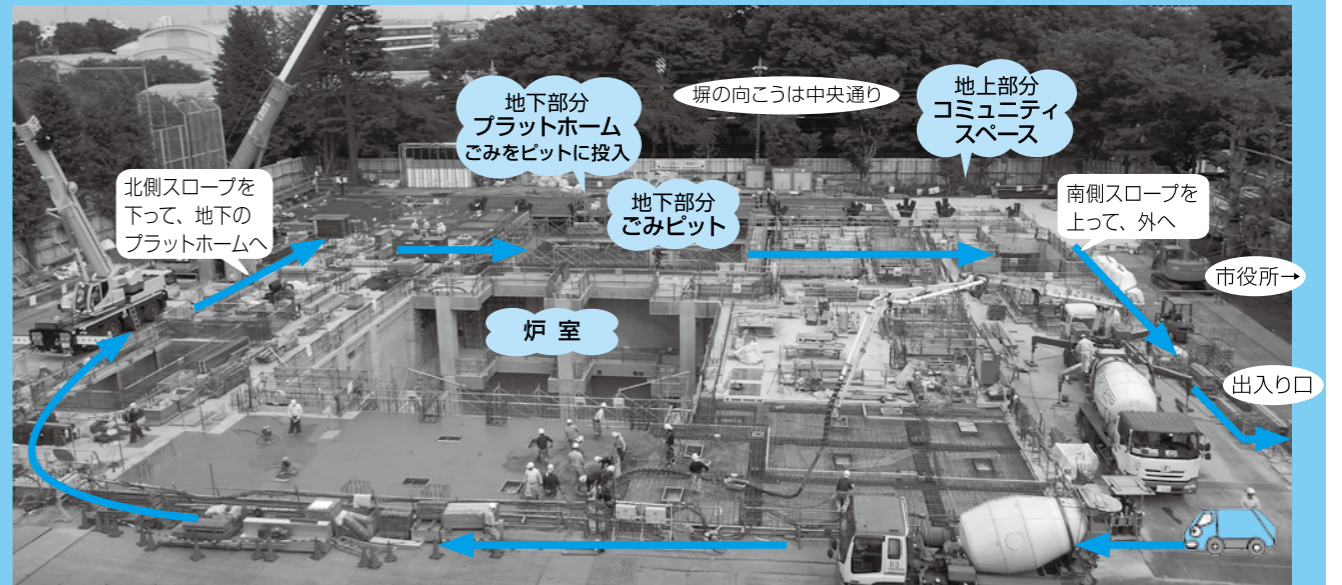
工事中 NOW 2015.6 建物の地上部分とプラント工事始まる

工場の建物地上の1階部分の工事に入りました。今年度中にも建物は建ち上がります。あわせて機械設備部分のプラント工事も開始。8月には焼却炉が設置される予定です。クリーンセンターでは、工事の進捗状況を見て11月頃に工事見学会を予定しています。工事の進捗具合は、建設工事30%、プラント工事0%、全体で16.7%です。

※工事の進行状況は、クリーンセンターのホームページでも。



煙突のデザインが新しくなりました。緑が茂り、市役所の上階から工事部分が見えなくなりました。

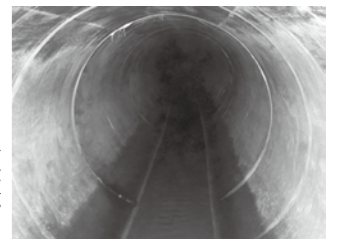


西側から見た工事の様子。6月中旬に中央にあったタワークレーンが撤去されました。

委員視察研修報告 最新の熱回収設備 ● 下水道・水環境のしくみ

3月10日、周辺3団体の委員ら総勢20名で西秋川衛生組合(あきる野市)の熱回収設備とふれあい下水道館(小平市)を視察しました。

薄暗い内径4.5mの下水道管の中は、写真では伝わらない臭いや湿気が充満しています。



● 西秋川衛生組合の熱回収施設

西秋川衛生組合は、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町の4自治体で構成され、あきる野市にごみ処理施設を建設し、ここで処理しています。

このごみ処理施設は、平成26年に稼働を開始したばかりで、最新の設備を備えています。特にごみを燃やした熱を利用して発電する蒸気タービン発電機は、新クリーンセンターにも設置されるものと同じタイプです。見学コースには、設備を臨む窓のそばにごみ発電のしくみを説明した展示があり、とても参考になりました。

また、市民・事業者・行政で「あきる野ごみ会議」を設置し、広報紙「へらすぞう」発行など、武蔵野クリーンセンター運営協議会とは違いますが、ごみ処理場の情報発信や啓発活動も行われていました。

● ふれあい下水道館

小平市が1990年に下水道普及率100%達成を記念して造られ、下水道の役割や水環境について考える全国で初めての施設です。地上2階～地下5階まで、小さな水族館や水に関する図書館、生きた微生物を見られる大型モニターのある講座室、下水道や小平の水環境についての展示室など、内容たっぷり。

特に地下5階のふれあい体験室では、地下25mに埋められている下水道管の中で、水の色や臭いなども体験できます。小平の下水道は、生活排水と雨水の合流式で、大雨の後は見学デッキまで水位が上がってきて危険なため見学中止になることもあるとか。

下水は9km離れた府中にある北多摩1号水再生センターで再生処理され、多摩川に放流されています。

自分の家のトイレや台所、洗濯などの排水は気をつけなくては!と考えさせられました。